

外来緊急度判定システム検討委員会

委員長 廣瀬 海帆

概要

外来救急度判定システム検討委員会は 2022 年に開設し、隔月に 1 回の定例会を行っています。当院では、2018 年 8 月より walk in（救急外来）受診患者に対し、来院後速やかに重症度判定を行い、診療の優先度の順位付けを行う「外来トリアージ」を開始しています。このための実施基準を作成、システムを検討することを目的とし、委員会を開催しています。

体制

委員会の構成は委員長 1 名、副委員長 1 名、各部門の委員 10 名で構成しています。

活動内容

当委員会では、状況、問題点などを解析・検討し、マニュアルを通して速やかに重症度判定を行えるよう情報の共有を行い、院内の救急体制改善に取り組んでいます。それに伴い、活動目標を設定し、隔月の委員会にて進捗を確認しています。また、委員会時にはトリアージ検証発表を行い、ER 医師、看護師を含め、実例を基に検証しトリアージの質の向上に取り組んでいます。

2025 年のおもな活動内容としては、実例トリアージの検証発表を行い改善部分の検討。また、下記の設定目標に対しそれぞれ進捗を確認を行いました。

●【検証発表】

- ・隔月に発表者 2 人程度、実例を基に検証を行っている。

●【活動目標の設定】

- ・個々に応じた指導を行い、承認することで、トリアージの質の向上に繋げる
- ・ベッドマップの導入をする
- ・トリアージ内容の見直し

●ベッドマップの導入

救急外来、ER の患者さんに対して診察、処置を経て、入院または帰宅に至る過程での、症状や処置、検査、連絡事項などをわかりやすくまとめてシステム化することを目的に ER のベッドマップの電子化を計画しています。委員会では、レイアウトや機能について検討し、早期導入を目標としています。